

松本市立島内小学校

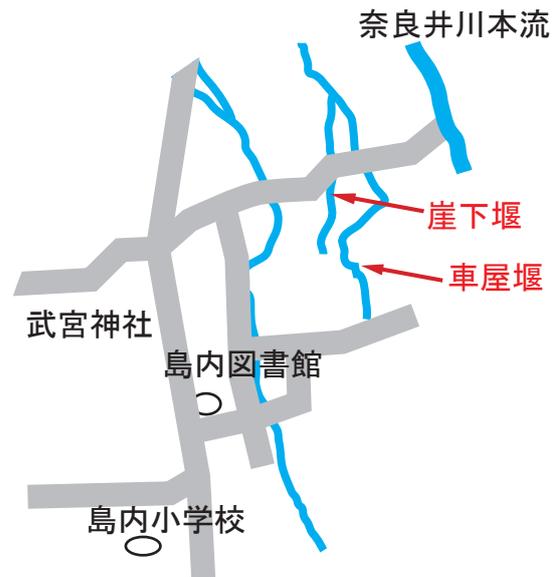
車屋堰・崖下堰の生物全員集合

《地域調べ型学習》

2019 年度
中信地区環境教育ネットワーク
(ee ネット) 登録団体
学習実践例

授業名：車屋堰の生物全員集合

学校名：松本市立島内小学校
学年・人数：3年1-5組 118人
日時：9月3日 8:15～11:45
講師：NPO 川の自然と文化研究所
(株)環境技術センター
主な活動場所：車屋堰、崖下堰



こどもと先生のねがい

生き物の扱い方、観察の仕方、生き物の生きる知恵 について教えてほしい。

こんな学習を。。。

- 1 G目 (3組・4組) 8:15 学校発～ 8:35 車屋堰、崖下堰にそれぞれ到着
8:45 ～採集～ 9:30 9:30 ～観察～ 9:50
10:00 川出発～ 10:20 学校着
- 2 G目 (2組・1組) 9:40 学校発～ 10:00 川着 車屋堰、崖下堰にそれぞれ到着
10:20 ～採集～ 10:55 10:55 ～観察～ 11:15
11:25 川発～ 11:45 学校着

児童の服装

水着の上にTシャツ、濡れてもよい運動靴、帽子、水筒

気を付けること

公民館に周辺民家への配慮を依頼
蚊がいる

当日の様子

【実施概要】

- ・車屋・崖下堰で見らる生き物について、自分たちで採集したり、講師の方が採集したりしたものについて、その生き物について講師の方に聞いたり観察したりしながら、活動した。
- ・ふり返りの活動では、車屋・崖下堰で見られた生き物について、自分たちの感じたことを踏まえながら、自分たちの図鑑を作ることで、より学びを深めた。

車屋堰

[3-3]

以前の総合的な学習の授業で車屋堰の存在を知っていた3年3組の子どもたち。どんな生き物がいるのか、以前から知りたがっていたので車屋堰での生き物探しにとっても意欲的だった。



初めは、車屋堰の細い支流で生き物探しを始めた。初めはヨコエビをたくさん採ることができた。

活動をしていくうちに、川の底や側面の草が生えている所に生き物がいることに気がつき、探し始めた。ヨコエビ以外にも、トビゲラの幼虫やヤゴにトノサマガエル。ヒルやブヨの幼虫。珍しい生き物だと、スナヤツメも見つけることができた。蛙を食べている昆虫も見つかり、身近な環境での食物連鎖を目の当たりにすることもできた。

学習の最後に講師の先生に、捕まえた生き物について説明をしていただいた。子どもたちが見たことのない、スナヤツメなど詳しく説明していただけたので、新鮮な驚きがあった。学校に戻り、見つけた生き物について絵と文章でまとめたが、講師の先生方に教えていただいたことを書いた子どもがたくさんいた。

子どもたちの感想の中に「車屋堰があることは知っていたし、見たこともあったけど、こんなにたくさんの生き物がいることに驚いた。」というものがあつた。普段近すぎて見逃しがちな場所にも、たくさんの生き物が住んでいることに気がつけた活動になった。



学習の後、子どもたちともっと調べてみたいことや解決しなくてはいけない課題がないか話し合った。「次は1組さんが調べていた崖下堰でも生き物を捕まえて、車屋堰と比べてみたい。」という声がたくさん上がった。機会があれば、崖下堰での活動を計画したい。

[3-2]



最初は堰の土手から活動を始めた。各自、網とバットを手にし、すくっていった。最初はヨコエビがたくさんとれていた。だんだんと、「ほかの生き物もつとめないかな」と徐々に活動場所を広げていった。

慣れてきたので、いよいよ深さのある堰のほうへ移動後、入ってみた。「ドジョウが取れたよ」「カキドジョウだって！大きくてすごいやつだよ！見て」自分たちの採った生き物を講師の方や担任に嬉しそうに見せたり、名前を聞きにいったらバットに移したりと、意欲的に採集活動に取り組んだ。



←メダカを採ったらしく、「よくメダカを採ったね」「これはどう見てもメダカだな」と驚く講師の方々を見て、「珍しいの、とっちゃった」と、嬉しそうにニコニコしていた。しばらく眺めたり講師の方にいろいろ聞いたりしていた。

採集後は、採ってきた生き物を並べて、講師の方に聞いたり質問をしたりする時間をとった。自分たちの採った生き物に興味津々らしく、自分たちからたくさん質問をし、難しい名前も何度も聞きながら覚えようとしていた。その後「きれいな所にしか住めないから」という講師の方々の言葉に納得し、「またね」「さようなら」と声を掛けながら、やさしく堰へ戻してあげることができていた。



活動のまとめとして自分たちが見たり触ったり、聞いたりしたことを残しておきたい、という気持ちと、もう少し調べておきたいという気持ちがあったので、クラスでもう少し調べて、オリジナルの図鑑を作りしばらく掲示することにした。さらに他の堰も調べて図鑑にして、校内にも飾ってみたいという願いが出てきている。

車屋堰の振り返り

🗨️ 子ども達の感想

どの子どもも大喜びで水の中に入り、時間いっぱい生き物採集を楽しんでいた。

- ・知らない生き物がいっぱいいたけど、おもしろい動きをするものとか、珍しい生き物とかも採れて、嬉しかった。
- ・時間が短かった、もっとやりたかった。
- ・専門の先生に教えてもらってすごく勉強になったし嬉しかった。

普段消極的な子が、自分から進んで講師の方に聞きにいたり、抵抗を示していた子たちが自分から水の中に入っていたりと、活動に夢中になっている姿が見られた。

🗨️ 先生方の振り返り

子どもたちにとっても職員にとっても、とても楽しく活動でき大変ありがたかった。子どもたちはまた自分たちの見ていないほうの堰にも行って、いろいろな生き物について詳しく知りたいという願いを持っている。

可能ならばまた講師の方々をお願いして、今回のような活動をしたいところだが、予算的な関係で2度、3度ということができないのが残念に思う。また、機会があったら計画したい。

🗨️ 講師の振り返り

生徒が水路に入り、水に親しみながら興味を持って生物の観察ができた。

また、こんな近くの川に、ドジョウやヤツメウナギなど最近ではあまり見ない生物を含め、何種類もの生物がいることを実感できたのではないかな。

🗨️ コーディネータから

島内には、湧水を主な水源とする車屋堰と呼ばれる水路があり、地元地区で定期的に整備を行っている。比較的自然のまま残っている水路であるため、様々な生物が生息している。

島内地区は中心市街地に近く、住宅化も進んでいるため、学校の近くにこのような自然の状態に近い水路があり、なおかつ最近あまり見なくなった生物がいることは驚きであり、子どもたちにも身近な自然を感じるいい機会だったと思われます。 (青)

崖下堰

[3-4]

(1) 講師の先生方に、堰の入り方や生き物の捕まえ方を教えていただいた。堰に入ることに抵抗があった児童も、講師の方に実際に生き物の捕まえ方を丁寧に教えていただくことで、「自分もやりたい」「楽しそう」と期待を持つことができた。入るポイントは最初グループごとに分けたが、活動が進むにつれ、自分が探したい場所に移る姿が見られた。



(2) 崖下堰で、生き物を夢中で探す子ども達。最初は「なかなか見つからない」と嘆いていた子達も、友だちが見つかる姿や講師の先生方にコツを教えていただくことで、様々な生き物を見つけることができた。また多くの種類を見つけることに重点をおいて、見つけた生き物を「これは何だ!」と驚く様子も見られた。

(3) 捕まえた生き物を友だちと見せ合う
生き物を捕まえることに夢中になっていた子ども達も少しずつ、周りの友だちが何を捕まえたのか気になり始めた。友だちが捕まえた生き物に驚いたり、自分の捕まえた生き物を自慢したりと、友だちと生き物を捕まえた喜びを共有する姿が多く見られた。



(4) 観察会

講師の先生から捕まえた生き物について教わった。聞いたこともない名前や特徴に多くのことを学ぶことができた。最後は、多くのことを学ばせてくれた生き物を放し、自然に感謝することができた。

[3-1]



崖下堰について川をのぞくと澄んだ水が子どもたちの目を引いた。「きれい。」と感激しながらも「生き物なんて見えないよ。」と不安そうな声。また、川の流れはそれなりのスピードがあったことから、水に入るときにとっても慎重になっていた。

さて、水の冷たさにも慣れてくると生き物の採集を楽しむ姿が増えてきた。網を一度すくうと、見たことのない生き物が動いている。「なにこれ？」と川の中に戻してもう一度すくってみる。「なんにもとれないよー。」という網の中には小さな生き物がいるのだが、子どもたちの生き物のイメージとはちがうのか、あまり興味を示していない。



そのうちに「これ、えびみたい。」と気付く子が出てきた。すると、他の子も「私もえびとれた!」「ぼくも!」とヨコエビが採れることに喜びを感じるようになった。ある子は網の中によろよろした生き物が入っていた。「うわっ、気持ち悪い。」と言う子もいれば「ぼく、さわられるよ。」とつまんでバケツに入れている子もいた。

この「よろよろ」が採れる度に辺りは大騒ぎになり、これは一体何なのだろうという疑問が出てきた。講師の先生に聞くと「ヒゲナガカワトビケラ」だと教えてもらい、一気に「生き物」として位置づけられることとなった。その後、ドジョウやカジカなど、多くの生き物も含めて夢中になって採集していた。採集後、講師の先生から、仲間別に説明していただくと、形やその動きのおもしろさにも気付くことができた。

学校に帰ってから、分かったことや思ったことをたくさん書いた子どもたち。新しく知った生き物についてさらに調べてみたいという気持ちを持った。さらに、参観日にも保護者の方に向けて発見したことを写真や絵を用いて説明していた。川に入ることや生き物を採ることについてあまり経験のない子どもたちもいたが、自然と関わる貴重な機会となった。



崖下堰の振り返り

☞ 子ども達の感想

・「だれかにこの魚はあそこにいたよとか教え合いたい」「いろいろとれたけど、もう少し種類のちがうものを取りたかった。」「つめたかったけど、いろいろな生き物がかまえられた」など、多くの感想があった。また「もっと生き物について調べてみたい」などこれからの活動につながる感想も多くあった。

☞ 先生方の振り返り

・地域の方や、講師の方に地元にある自然資源についてお話をいただいたことが有難かった。また、体験を通して、今まで川遊びをしたことがない子や抵抗があった子も夢中で取り組む姿が多く見られた。

・授業参観日で、堰での体験をグループでまとめ、保護者にも知ってもらうことができた。

☞ 講師の振り返り

○始めはおっかなびっくりの子ども達だったが、段々なれてきて水や生物に親しんでくれてよかった。元気でいきいき活動できた。

○沢山の種類を見つけていくことで、水生の生き物に興味をもつきっかけになってくれると嬉しい。

○夢中で学習することがなにより大事だと思う。

○小さいころから地域の自然に触れる機会をたくさんつくれるといい。

○身の周りの水がどのようにになっているのか、水の循環学習につながればと思う。

☞ コーディネータから

○湧き水で水質もきれいで地域の特性がうかがえた。反面、水かさがやや多く流れもあり、冷たさも手伝ってか、水に入らないで川岸からあみを入れて生物をとっている子ども達の姿も見受けた。

○今まで川の生物学習をしてきたとあって、子ども達の取り方は上手である。

○石を上げる子、あみをおく子など、1人ではなく2人で組んで行動する姿もあり、工夫する面が見受けた。

○大きなゴミをひろって先生に届ける子もいる。「ゴミをなくしたいね」と対応する先生の姿もあり・・・環境教育の具体はどこにもあると感じた。

○生物に直接触れることができない子どももいて、経験を重ねることが大事だと思う。⑩